

第50期 第2四半期報告書

Fuji Pharma IR Report

2013年10月1日から2014年3月31日まで

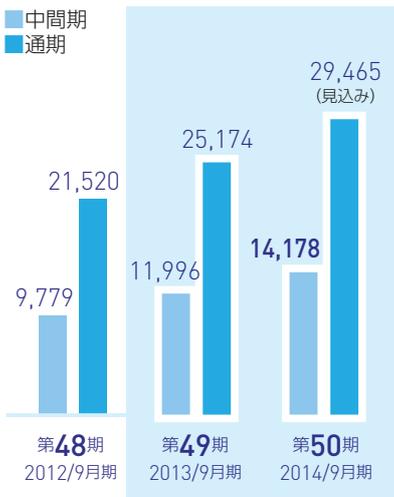


株主・投資家の皆様へ

主力製剤を中心に販売が順調に推移し、売上高は対前年同期で増収となりました。研究開発費やのれん償却等の増加により、利益面で減益となりましたが、期初予想は大きく上回りました。

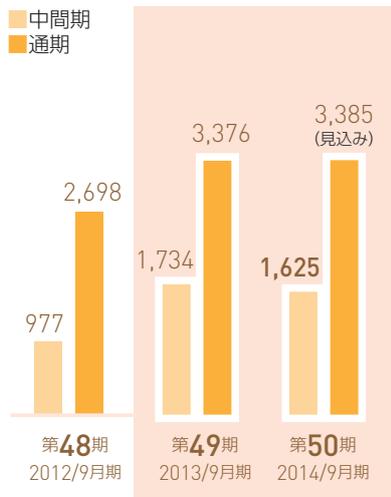
売上高

(単位:百万円)



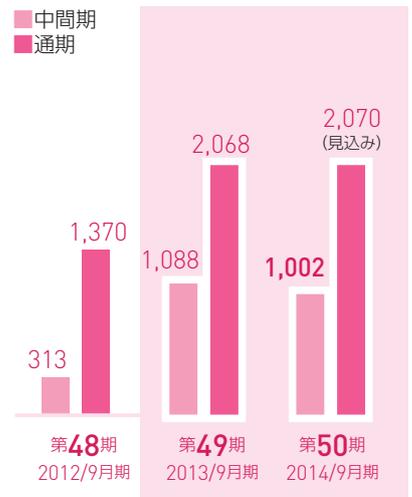
経常利益

(単位:百万円)



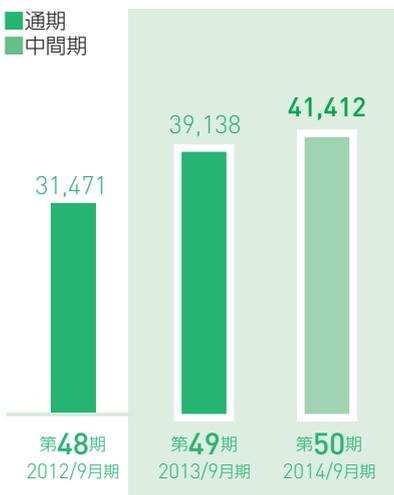
当期純利益

(単位:百万円)



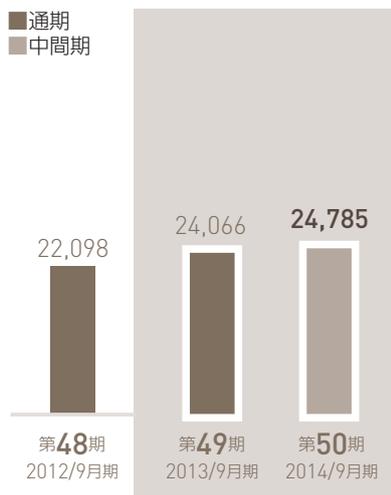
総資産

(単位:百万円)



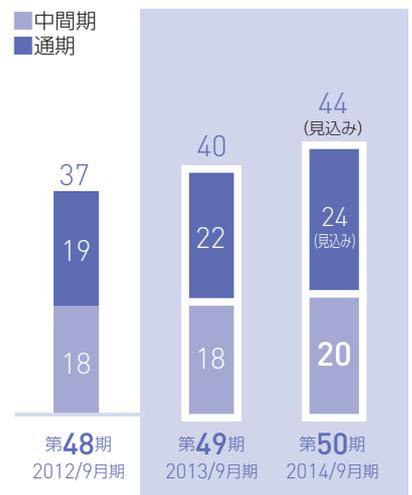
純資産

(単位:百万円)



1株当たり配当金

(単位:円)



※第48期については、当社単体の数値です。



国内外での事業投資強化を通じ、
新たな『成長』に向けた取り組みを
加速してまいります。

代表取締役社長 今井博文

■ 中期経営計画の概要と進捗、新たな取り組みや活動について

2014年9月期(第50期)は現中期経営計画の総括の年度となります。上半期累計期間につきましては、「会社設立50年までに、既存のコア事業の拡大と、次の時代につなぐ新規事業機会の具体化を実現すること」を重点課題として3つの基本方針のもとで、以下のとおり取り組んでまいりました。

基本方針①注射剤に資源集中投入、急性期医療の充実

昨年12月に先発の非イオン性造影剤「オプチレイ®注」の国内独占販売を開始し、当社の主力分野の注射剤である造影剤の拡充を図りました。また、同月より当該製剤のマーケティング専門部署を立ち上げ、情報提供の充実、販売力の強化を図り、急性期医療領域においてより多くの患者様へ貢献を高めてまいりました。

基本方針②女性医療のリーディング・カンパニーを実現

取り扱いが難しいホルモン製剤を中心に日常診療に必要な全ての女性医療医薬品をカバーしていることが当社の強みの1つですが、昨年9月から国内においては最低用量のエチニルエストラジオールを含量する女性ホルモン剤である月経困難症^{*1}治療剤「ルナベル®配合錠ULD」^{*2}の販売を強化するとともに、同年12月からは塩野義製薬株式会社から産科・婦人科製剤の新薬4製剤の製造販売承認の承継及び販売移管を行い、ラインナップの充実を図ってまいりました。

基本方針③東南アジアで最大の医薬品製造機能の構築へ

2012年10月にタイ国最大の医薬品製造受託企業であるOLIC(Thailand)Limited(以下、OLIC社)を子会社化しました。現在、OLIC社では新注射剤工場の建設準備を進めており、当社の主力製剤である注射剤におけるコスト競争力強化を図ってまいります。

本年3月には三井物産株式会社と資本業務提携契約を締結し、グローバルなネットワークに強みを持つ同社との連携強化を行うことにより、OLIC社を活用した海外市場における医薬品の製造・販路の拡大等を計画しております。

また、4月からは医薬品の開発権や製造販売権の獲得を更に促進するため、事業開発部を新設し新体制で臨んでおります。

■ 今期の見通しについて

2014年4月の消費税増税や薬価改定による駆け込み需要の影響を受け、上半期累計期間の業績は順調に推移いたしました。下半期はその反動が予想されますが、前述のとおり、当社の主力製剤である女性ホルモン剤や造影剤の販売強化を行うとともに、三井物産株式会社との連携を通じて、医薬品の開発権や製造販売権の獲得、国内外市場における医薬品の販売・販路の拡大を進めてまいります。そのため、通期の連結業績予想につきましては現在の計画どおりの達成を見込んでおります。

2014年9月期 連結業績予想

売上高	29,465 百万円	(前期比 17.0%増)
営業利益	3,450 百万円	(前期比 5.8%増)
経常利益	3,385 百万円	(前期比 0.3%増)
当期純利益	2,070 百万円	(前期比 0.1%増)

当社グループの経営理念である「優れた医薬品を通じて、人々の健やかな生活に貢献する」、「富士製薬工業の成長はわたしたちの成長に正比例する」ことを土台として、当社グループの強みを生かし、特定の領域、勝てる戦いに集中することにより、持続的に企業価値を高めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2014年5月

■ 用語解説 ■

※1 月経困難症:日常生活に支障をきたすほどの生理痛を生じる症状で、たとえば、生理がくると「痛みがひどく、横たわっていないと耐えられない」「つらくて会社に行けない」などといった重い症状が、月経困難症の特徴です。臓器に病気があるために起こる器質性月経困難症とホルモンの影響で起こる機能性月経困難症があります。

※2 ルナベル®配合錠ULD:発現頻度はまれですが、女性ホルモン剤に懸念される血栓症などの重篤な副作用の発現頻度を更に低減する目的でエチニルエストラジオール(EE)の低用量化を進めた製剤であり、ノルエチステロン1mg/EE 0.02mgの用量で月経困難症治療剤として承認された薬剤は、世界で初めてです。既に販売しております「ルナベル®配合錠LD」のEE含量を0.02mgに低用量化することで、重篤な副作用の発現を更に低減することを目的として開発された製剤です。

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 2014年3月31日現在	前 期 2013年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	25,861	23,772
現金及び預金	5,622	6,015
受取手形及び売掛金	10,792	9,697
たな卸資産	7,932	6,537
その他	1,515	1,521
固定資産	15,550	15,366
有形固定資産	10,212	10,506
無形固定資産	4,629	4,105
投資その他の資産	709	753
POINT 1 ▶ 資産合計	41,412	39,138
(負債の部)		
流動負債	10,864	8,917
固定負債	5,762	6,153
POINT 2 ▶ 負債合計	16,627	15,071
(純資産の部)		
株主資本	24,336	23,644
資本金	2,447	2,447
資本剰余金	3,672	3,672
利益剰余金	18,217	17,525
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	447	421
少数株主持分	0	0
POINT 3 ▶ 純資産合計	24,785	24,066
負債純資産合計	41,412	39,138

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 累計期間 2013年10月1日から 2014年3月31日まで	前第2四半期 累計期間 2012年10月1日から 2013年3月31日まで
売上高	14,178	11,996
売上原価	8,126	6,752
売上総利益	6,051	5,243
販売費及び一般管理費	4,490	3,634
営業利益	1,561	1,609
営業外収益	93	155
営業外費用	28	30
経常利益	1,625	1,734
特別利益	76	—
特別損失	43	3
税金等調整前四半期純利益	1,658	1,730
法人税、住民税及び事業税	489	580
法人税等調整額	166	62
少数株主損益調整前四半期純利益	1,002	1,088
少数株主利益又は少数株主損益(△)	△ 0	0
四半期純利益	1,002	1,088

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 2013年10月1日から 2014年3月31日まで	前第2四半期 2012年10月1日から 2013年3月31日まで
POINT 4 ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,573	913
POINT 5 ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,211	△ 5,788
POINT 6 ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 771	4,532
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	73
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 392	△ 269
現金及び現金同等物の期首残高	6,521	5,676
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,128	5,406

財務諸表の解説

POINT 1▶ 資産について

非イオン性造影剤オプチレイ®注や塩野義製薬株式会社からの新薬の承継品が加わったこと、特にホルモン剤の売上が順調に推移したことなどによる売上高の増加に伴い、売上債権が増加しております。

たな卸資産は、上記の承継品等が追加されたこと、システム変更に伴う在庫計上の基準を変更したことにより、増加しております。

無形固定資産は、上記の新薬承継のために取得した販売権により、増加しております。

POINT 2▶ 負債について

非イオン性造影剤オプチレイ®注など新たな納入が増えたこと、たな卸資産増加と同じく在庫計上の基準変更に伴う増加、今後の売上増加に備えるための製造数量確保のための原材料の仕入増加などにより、仕入債務が増加しております。

POINT 3▶ 純資産について

前期末に比べて負債が増えたことにより、自己資本比率は前期末に比べて1.7ポイント減の59.8%となりました。

POINT 4▶ 営業活動によるキャッシュ・フローについて

主に、非イオン性造影剤オプチレイ®注や塩野義製薬株式会社からの新薬の承継品が追加されたことやシステム変更に伴う在庫計上の基準を変更したことに伴う仕入債務の増加などにより、営業活動によるキャッシュ・フローが増加しております。

POINT 5▶ 投資活動によるキャッシュ・フローについて

前期はOLIC社買収に伴う支出や富山工場の第Ⅱ期工事や研究開発センターの建設などの設備投資がありましたが、当第2四半期までに大型の投資はありません。

POINT 6▶ 財務活動によるキャッシュ・フローについて

前期はOLIC社買収資金などを銀行借入にて調達いたしましたが、当第2四半期までは借入金の返済や配当金の支払いなどによる支出だけで大きな変動はありません。なお、下期については、三井物産株式会社への第三者割当増資による新株発行で収入が発生いたします。

詳細な財務情報は、
当社ホームページ 株主・投資家情報の
IRライブラリをご覧ください。

富士製薬工業IR

検索

アドレスはこちら▼
<http://www.fujipharma.jp/ir/library/index.html>

OLIC (Thailand) Limited REPORT



OLIC (Thailand) Limited



OLIC社Managing Director上出氏に、
現況と今後の成長戦略について語っていただきました。

■ Q OLIC社を取り巻く市場環境についてお聞かせください。

タイを含めた東南アジアは、経済発展に伴い、医薬品市場が年々拡大し、今後も成長が見込まれています。タイでは反政府デモによるバンコク封鎖などの影響により、政府機関を中心に若干の混乱がみられましたが、これまでのところ影響は限定的です。政治の混乱が早期に収束することを望むばかりで、一時的な経済への影響はあるかもしれませんが、大きな流れとしては経済成長の最中にあることは間違いなく、医薬品市場は今後も更なる発展が続くだろうと考えています。

■ Q 富士製薬工業グループにおけるOLIC社の役割は？

OLIC社は医薬品を中心とした製造受託専門企業で、グローバル製薬企業から委託を受け、タイをはじめとする東南アジア向けの医薬品などを製造しています。製造受託企業としてのOLIC社の知名度は相対的に高く、既存顧客からの製造受託を拡大させることはもとより、新規顧客開拓にも注力し、製造受託事業の更なる拡大をととして富士製薬工業グループの発展に貢献したいと考えています。

また、少し時間はかかりますが、富士製薬工業、OLIC社の自社製品の製造販売の認可を取得し、東南アジア市場で自社ブランド品の展開も図りたいと考えています。

■ Q OLIC社の重点施策について教えてください。



OLIC社
Managing Director 上出 豊幸氏

OLIC社の既存敷地内に新注射剤工場を建設するため、現在、設計を進めています。新工場では富士製薬工業の注射剤の一部を製造し、日本向けに輸出するとともに、同工場で製造する自社ブランドの注射剤を東南アジア市場で販売することを計画しています。また、高い品質とコスト競争力を武器に、日本をはじめとするグローバル製薬企業からの注射剤の製造受託も積極的に開拓し、稼働率を高めてまいります。

■ 2012年10月1日付けで富士製薬工業グループの一員となりました。

名称	OLIC (Thailand) Limited
設立	1984年4月
所在地	アユタヤ(タイ) (バンコクより北に70 km) 166 Moo 16, Bangpa-In Industrial Estate, Udomsornayuth Road, Bangkrason Bangpa-In, Ayutthaya Province 13160, Thailand
事業内容	医薬品等の受託製造 35以上の多国籍の顧客に600品目以上の製品を供給
医薬品	錠剤、カプセル剤、軟膏・クリーム剤、液剤、注射剤など

■ Q 新工場稼働のスケジュールは？

着工は2014年末、建屋の完成は2016年初め頃の見込みです。その後、品質保証された間違いのない医薬品製造のために、製造設備の検証作業や試作品の製造、タイと日本の当局による認可取得などに1年ほどかかり、製品の出荷開始は2017年春頃になる見込みです。

■ Q 株主・投資家の皆様へ向けてメッセージをお願いします。

医薬品の製造認可取得と新工場建設にはまだ時間が必要ですが、富士製薬工業グループの重要な製造拠点の1つとして、また、今後拡大する東南アジア市場開拓の拠点として、グループの発展に寄与してまいりたいと思います。株主の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年2月

ISO9001:品質、ISO14001:
環境、ISO18001:安全の認
証を取得しました。



トピックス

月経困難症啓発Webサイト「ようこそ、生理痛外来へ」を開設しました。

生理痛で悩む女性への情報提供を目的に、当社、ノーベルファーマ株式会社、日本新薬株式会社により発足された「月経困難症啓発フォーラム」*において、本年2月に月経困難症啓発Webサイト「ようこそ、生理痛外来へ」を開設しました。サイトでは生理痛に関する正しい情報、セルフチェックなど、生理痛について相談できる全国の産婦人科が検索できるページなどを提供しています。

*「月経困難症啓発フォーラム」は、疾患として認識されているとは言い難い状況にある月経困難症について、世の中の女性たちに正しく理解してもらうことを目的に2014年1月、当社、ノーベルファーマ株式会社、日本新薬株式会社の3社の協力によって発足しました。

アドレスはこちら ▶ <http://maitzuki-rakuda.jp>



三井物産株式会社と資本業務提携契約を締結

当社は、OLIC社を活用した海外事業展開の拡充、研究開発投資の強化などを目的に、2013年11月より資本関係強化を含む広範な業務提携を三井物産株式会社と協議してまいりましたが、2014年3月20日付で、第三者割当増資による資本業務提携契約を締結いたしました。グローバルなネットワークに強みを持つ同社との緊密な連携を一層推進することにより、シナジー効果を更に強め当社グループの経営力を強化する一方、このたびの調達資金をもって、OLIC社の設備投資や新薬の研究開発を強化してまいります。

前報告書でご協力をお願いいたしました、アンケートの集計結果についてご報告いたします。ご回答いただきました381名の株主の皆様、ご協力誠にありがとうございました。

当社では貴重なご意見として、今後の活動へ反映させるべく努めてまいりたいと思います。アンケートは定期的の実施してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

Q: バイオ後続品*G-CSF製剤って何でしょうか？

A: 抗がん剤の副作用により減少した好中球という免疫細胞を増やすお薬です。抗がん剤の投与で発熱することがありますが、G-CSFを投与することで発熱を抑えることができます。抗がん剤はがん細胞だけでなく副作用として骨髄細胞も攻撃してしまい、骨髄で作られる種々の免疫細胞の生産を低くしてしまいます。その中に好中球という免疫細胞があります。好中球は体外から入ってきた細菌を食べて排除しますが、それが少なくなると細菌が繁殖して発熱します。G-CSFを投与すると、骨髄の好中球を作る細胞を刺激して好中球を増やしてくれるので、細菌の繁殖を抑えて結果として熱を下げてくれます。他にも骨髄を移植したあと等に使用されます。

※「バイオ後続品」・・・国内で既に承認されたバイオテクノロジー応用医薬品（先行バイオ医薬品）と同等・同質の品質及び安全性、有効性を有するものとして、厚生労働省が認めた医薬品です。

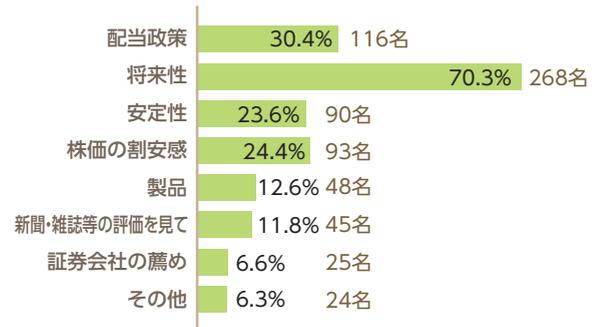
Q: 重点領域とする女性医療における生殖補助医療(ART)とは何でしょうか？

A: Assisted Reproductive Technologiesの略で、難治性不妊症に対する不妊治療の総称です。体外受精・胚移植・顕微授精などをいいます。

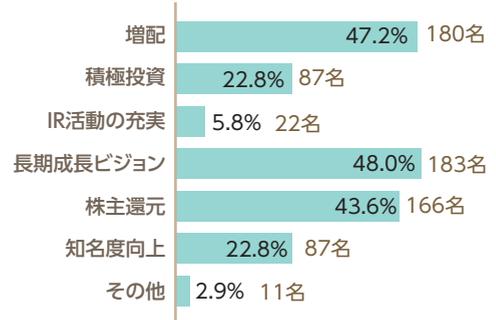
■株主アンケート集計結果

アンケート配布4,373名/回答381名(回答率8.71%)

当社の株式を購入した理由について お聞かせください。(複数回答可)



当社に望まれることは何ですか？(複数回答可)



株主様からの『応援メッセージ』

先日、耳鼻科へ行き、薬をもらおうと、富士製薬のものでした。なんとなく、うれしかったです(ジェネリック希望と伝えました)。今後を期待します。

これからも堅実経営に徹してほしい。

企業価値の向上に努めてください。

今後の発展を期待しています。

海外展開に期待しています。

社会に貢献する会社でありますように。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、当社をよりご理解いただくため「バーチャル工場見学」や会社情報、最新のトピックス、業績報告など様々な情報を掲載しております。ぜひアクセスしてください。

アドレスはこちら↓

<http://www.fujipharma.jp/>



会社概要 | 2014年3月31日現在 |

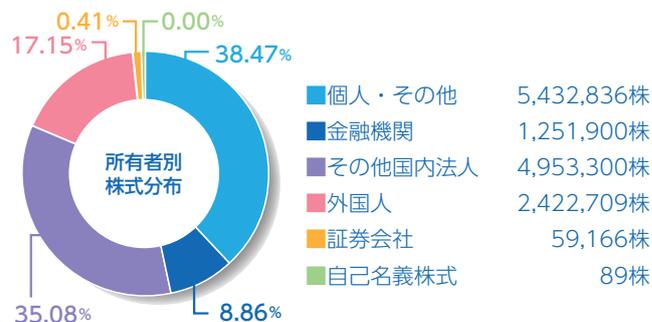
会社名	富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)		
所在地	〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7		
設立	1965年4月		
資本金	24億4,741万円		
社員数	連結：1,455名 (富士製薬：649名、OLIC社：806名)		
事業所	本社：東京 支店：東京（関東第一・第二）、名古屋、大阪（大阪第一・第二）、福岡 営業所：札幌、仙台、富山 工場：富山 研究所：富山研究開発センター		
海外グループ会社	OLIC (Thailand) Limited http://www.olic-thailand.com/		
役員	代表取締役社長	今井博文	
(2014年3月31日現在)	常務取締役	広見 覚	
	取締役	上出 豊幸	
	取締役	三橋 厚弥	
	取締役	平山 健	
	取締役	小澤 雅之	
	取締役	宇佐見 卓也	
	取締役(社外)	小沢 伊弘	
	取締役(社外)	内田 正行	
	常勤監査役	徳永 賢一	
	監査役(社外)	三村 藤明	
	監査役(社外)	佐藤 明	

株式の状況 | 2014年3月31日現在 |

発行可能株式総数	28,220,000株
発行済株式総数	14,120,000株
株主数	3,475名
大株主	

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社F J P	2,141,000	15.16
今井 博文	2,025,000	14.34
三井物産株式会社	1,930,600	13.67
テルモ株式会社	643,500	4.56
新井 規子	620,000	4.39
BBH FOR HEARTLAND VALUE FUND,INC.	500,000	3.54
今井 道子	423,000	3.00
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT	385,300	2.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	352,500	2.50
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	268,900	1.90

(注) 持株比率は自己株式(89株)を控除して計算しております。



株主メモ |

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 期末配当金 毎年9月30日 中間配当金 毎年3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話 照会先) ☎ 0120-782-031 (インターネットホームページ URL) http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第一部

●第50期中間配当金のお支払いについて

第50期中間配当金は、同封の「第50期中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(2014年6月2日から2014年7月2日まで)にお受け取りください。なお、銀行預金口座への振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認くださいようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■ お問い合わせ

本社/管理部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F
TEL : 03-3556-3344 FAX : 03-3556-4455

URL : <http://www.fujipharma.jp/>

